

保育者養成課程におけるピアノ指導の一考察

— グループレッスンによるアンケート調査を通して —

鶴巻 保子*, 嘉野美津子**

View on Piano Teaching for Early Childhood Education Majors
— Study on a Student Survey Concerning Group Lesson Style —

Yasuko Tsurumaki* and Mitsuko Kano**

保育者養成課程において、ピアノ実技の授業は保育の表現技術として、一般に欠かすことのできない科目とされている。学生は幼稚園や保育所に必要とされるピアノ技術を短い期間で修得しなければならない。

そこで筆者らは、保育者をめざす学生がピアノ演奏を楽しみ、音楽表現力を育む指導のあり方を追求することを目的とし、ピアノの授業についてのアンケートと幼稚園教育実習後の振り返り調査を行った。その結果、ピアノ実技を楽しむこととピアノ実技に対する意識の向上が確認された。一方、実習や他者の前でピアノを演奏する不安や緊張が大きいことが明らかになった。課題として、学生が保育現場に就いた後も、のびのびと自信をもって音楽活動を展開できる読譜力をつけ、楽譜にとらわれないで柔軟に演奏できるピアノ実践力の指導法を継続して追求する必要があることが挙げられる。

Key Words: [音楽表現技術] [グループレッスン] [弾き歌い] [コード伴奏]
[音楽基礎知識]

(Received September 11, 2017)

I. はじめに

平成14(2002)年、鹿児島純心女子短期大学生活学科に、こども学専攻(以下「本学」と記す)が新設され、保育士養成校として踏み出してから15年になる。2002年は「こども学」を冠した3大学の開設と同時に、短期大学では本学が初めて「こども学」専攻として誕生した¹⁾。さらに平成16(2004)年に幼稚園教諭二種免許の課程認定を受け、保育士資格に加えて幼稚園教諭免許の取得が可能な画期的な短期大学となった。

平成23年、保育士養成課程の改正によって、「基礎技能」から「保育表現技術」²⁾という名称になり、「子どもの表現を広く捉え、子ども自らの経験や周囲の環境との関わりを様々な表

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科こども学専攻(〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号)

** 鹿児島純心女子短期大学非常勤講師

現活動や遊びを通して展開していくことが重要である」³⁾とされ、総合的な音楽指導の中でのピアノ指導が求められるようになった。したがってピアノ演奏は、この趣旨に添って子どもの表現活動を支え、展開させていく技術として身につける。保育現場で必要とされるピアノ力は歌の伴奏や弾き歌いができること、保育の場面に応じて音楽活動を展開できるピアノ技術とともに、表現力が重視される。また子どもの音楽活動においてピアノは、他の楽器に比べて音域が広く、旋律を歌う役割と打楽器的なリズムも生み出せる楽器であり、多彩な音色と様々な表現が可能なることから、保育現場で一般に用いられている。2年の短い修養年限に、これらのピアノ技術修得のための読譜、基礎知識、音楽表現などを修得することは、ピアノ未経験者やピアノ経験の浅い学生にとって相当な時間を要し、種々の困難を伴うのである。

本稿は、初めに本学のピアノ授業の背景とピアノ授業の概要について述べる。次に平成28年度における1年次のピアノ授業「音楽Ⅱ」に関するアンケートと29年度幼稚園教育実習Ⅱを終えた後の調査を通して、学生たちのグループレッスンによるピアノ技法の学修状況とピアノ実技における自己評価をはかる。保育者を目指す学生自身がピアノ基礎技法を楽しいと感じ、意欲的に取り組み、自信をもって音楽活動を展開できるピアノ実践力の指導法を考察するものである。

Ⅱ. ピアノ授業の背景

1. カリキュラムの見直し

本学のピアノの授業である音楽Ⅱ（ピアノ基礎技法）は、平成26年度まで1年次のみ必修科目であった⁴⁾。本来、音楽科目としての単位はこれで満たしている。しかし、年々ピアノ未経験者と経験の浅い学生の割合が増える傾向にあることと、音楽基礎知識の理解が不十分な学生の増加も顕著である。筆者（鶴巻）は、平成18年度よりピアノの授業を担当してきたが、1年次のみグループレッスンにおいて、実習や保育現場のニーズに応えられるピアノ指導内容と、就職採用試験の指導において成果が出せず、試行錯誤を繰り返してきた。そこで音楽科目のカリキュラムの見直しを行い、平成28年度より2年次前期音楽Ⅳ（ピアノ実践法）を幼稚園免許、保育士資格必修科目とし、29年度より楽典をピアノ授業において指導する形態とした⁵⁾。平成29年度音楽開設科目は表1のとおりである。

表1 平成29年度保育内容の指導法に関する音楽科目のカリキュラム

年次	配当	科目名	資格	単位数
1年次	前期	音楽Ⅰ（こどもと音楽）	必修/幼保	1単位
	通年	音楽Ⅱ（ピアノ基礎技法）	必修/幼保	2単位
	後期	音楽Ⅲ（音楽基礎知識）	選択必修	1単位
2年次	前期	音楽Ⅳ（ピアノ実践法）	必修/幼保	1単位
	後期	音楽Ⅴ（ピアノ表現法）	選択	1単位

2. 入学前の準備

1) 入学前教育「入学前ピアノレッスン特別講座」

音楽カリキュラムの見直しと並行して、平成27年度新入生より、ピアノ未経験者対象の「入学前ピアノレッスン特別講座」の実施を開始した。ピアノ経験がなく不安を抱く入学生の導入のため、4月からの授業をスムーズに開始できるように、2日間のグループレッスンを行うものである。3年目となる29年度の参加者は新入生44名中12名（27.2%）であった⁶⁾。

表2に平成29年度入学前ピアノレッスン特別講座の日程を示した。1クラス6名編成のグループで行い、筆者（鶴巻）が担当した。

表2 入学前ピアノレッスン特別講座の日程

		グループA 6名	グループB 6名
実施日	第1日 2017年3月23日	9:00～10:30	10:40～12:10
	第2日 2017年3月24日	9:00～10:30	10:40～12:10

内容について

第1日

自己紹介より始める。

①指の番号について：楽譜と鍵盤の音の高低について ②順次進行：ドからソまでの5音を5本の指を使って片手ずつ弾く。ポジションについて：CポジションとCメジャーの準備 ③「ちょうちょう」の演奏、歌詞、階名で歌う。右手メロディー、左手（CとG₇）伴奏を弾く ④両手で弾く。

第2日

①第1日の復習 ②「メリーさんのひつじ」 ③手あそび「はじまるよはじまるよ」

④「チューリップ」 ⑤本日の復習

第2日目の最後にアンケートを行なった。6項目の設問の中で講座の内容について難易度を問う回答の結果を表3に示す。「やや難しかった」4名（33%）、「ちょうど良かった」3名（25%）、「やや簡単だった」5名（42%）であった。「やや難しかった」と応えた参加者には内容が盛りだくさんであったかもしれない。「ちょうちょう」と「メリーさんのひつじ」の2曲を、弾きながら声を出して歌うこともできるようになったが、最後の「チューリップ」が難しかったと推測される。「ちょうど良かった」と「やや簡単だった」の回答を合わせると8名で全体の3分の2を占めている。音楽能力あるいはピアノ以外の音楽経験によって差が表れていると推察する。内容については概ね適切であったと考える。

表3 講座の難易度について

n = 12

難しかった	やや難しかった	ちょうど良かった	やや簡単だった	簡単だった
0	4名 (33%)	3名 (25%)	5名 (42%)	0

講座についての感想の一部を紹介する。

- ・両手では弾けないとずっと思っていたので「ちょうちょう」が弾けてとてもうれしかった。
- ・ピアノだけではなくみんなで歌ったり手遊びをしたりして楽しかったです。
- ・とても楽しく音楽に触れ合うことができ本当に良かったです。純短での学校生活が楽しみになりました。
- ・最後の「チューリップ」は最後まであやふやだったので、また自分で練習して入学までに覚えた3曲を完璧に弾きたいと思った。
- ・初めはとても不安だったけど、みんなと仲良くなれ、弾ける曲も増えてよかったです。
- ・CとG₇2つのコードを使って曲が弾けるなんて驚きでした。同じ初心者の子がいてすごく安心したし、楽しかったです。4月からも楽しみながら、一生懸命練習しようと思います。家でも練習します。

ほとんどの受講者が前向きな感想であった。最後の2名の記述からわかるように、ピアノ基礎技法の導入だけでなく、参加したピアノ未経験者との交流の機会ともなったことで不安感を和らげ、意欲向上に向かう講座となり得たと考えられる。

2) 入学前課題「音楽基礎知識」

音楽基礎知識(楽典)の理解の不十分な学生は、ピアノ経験の有無によらず少なくないことから、平成28年度入学生より、演奏の土台となる読譜の準備をするために課題を全員に出した。小学校から中学校まで学習した音楽基礎知識を復習することで、特にピアノ未経験者および経験の浅い学生が、ピアノの授業をスムーズに開始できるようにする。課題は「譜表、音名、変化記号、音符・休符の種類、音譜表ト音記号とヘ音譜表の音符を鍵盤で認識し、音名で記入する、声を出して歌ってみる、音符休符」についての設問である。参考資料「音符:全音符、2分音符、4分音符、8分音符、16分音符および付点音符とこれらに対応する休符、鍵盤と音符、記号、楽譜と鍵盤の位置、変化記号シャープ(♯)、フラット(b)、2オクターブの鍵盤、指番号」をA4用紙2枚に作成し添付した。これを参照すれば回答できる内容である。一部の学生を除いて大部分の学生はよく取り組んでいた。

Ⅲ. ピアノ授業の概要

1 グループレッスンについて

本学のピアノの授業は、開設当初からグループレッスンを導入している。但し、ミュージックラボラトリーシステム(MLまたはMusic Laboratory)⁷⁾による集団レッスンとは異なる。「習熟度別クラス」と「少人数クラス」で編成するところが本学の特徴的なレッスン形態と言えよう。ピアノレッスン室には教員用1台と学生用電子ピアノが9台設置されており、最大9名のクラスとなる。学生数の推移により一クラスの人数は変動するが、平成28年度と平成29年度の音

楽Ⅱ及び音楽Ⅳは平均1クラス5～9名編成である。

ピアノの授業である音楽Ⅱ（専攻必修）と音楽Ⅳは資格取得必修科目であり、ほとんど全員が受講している。1年次音楽Ⅱのクラス分けは、「入学前ピアノレッスン特別講座」に参加した学生をまとめたクラスで編成し、他のピアノ経験のある学生は、入学直後に実施するプレースメントテスト（任意の一曲を演奏、音楽経験に関する質問調査、面接）により、習熟度別クラス編成を行う。「ピアノの経験がある」学生についての実態は様々である。本学への入学が決まった後習い始めて1年未満の学生、小学校の頃1～2年習いやめて以来、ブランクが長い学生など様々である。学生によって、2～3年の経験歴があっても未経験者グループを希望する学生もいる。その内訳についてはV章で述べることにする。指導は3名で行なっている。ピアノ未経験者と2～3年の経験者を木原（非常勤）、1ヶ月～4、5、6年経験者を鶴巻（専任）、7年以上の経験者を嘉野（非常勤）が担当している。

2 指導内容

90分の授業では、①ピアノテクニック ②童謡の伴奏と弾き歌い、コードネームによる伴奏 ③ピアノ曲 ④楽典を指導する。クラスによって用いる歌や楽曲は異なるが、楽典をピアノ技術の向上に関連付けた内容で行い、コードネームの基礎学修が童謡の伴奏や弾き歌い、ピアノ演奏に活用できる技術をめざすという目標は同じである。

①ピアノテクニック

ピアノの基礎技法は基本をしっかりと学習し、指のトレーニングが必要であり、初心者や経験者にとっても必要である。初心者（鶴巻クラス）は『バステインピアノベイシックステクニック2』を用いて、経験者（嘉野クラス）は『ハノンピアノ教本』の音階を中心に指導する。

②伴奏と弾き歌い

童謡の弾き歌いは、保育現場から求められる一般的なピアノ技術であり、子どもとのかかわりという視点からも音楽表現の視点からも重要視されている。『うたとあそび』⁸⁾のオリジナルの伴奏譜は難易度が高い曲もある。特に初心者にとって困難な伴奏は、コード伴奏を導入し、簡易な伴奏で歌いながら弾けることを目指す。そのために『新版和音伴奏による幼児のうた100曲 [第2版]』⁹⁾（以下『幼児のうた100曲』と記す）を使用する。初心者が理解でき、取り組みやすいコード伴奏と経験者はアレンジを加えながら学ぶことでピアノ伴奏の可能性を広げていくことができる。単純なコードを使い、初心者も「やってみよう」という気持ちになる。コードを使った簡易な伴奏で弾ける曲が増え、レパートリーも広がる。『うたとあそび』の伴奏譜の難しい箇所をコード伴奏に変えてアレンジを加えながら仕上げることによって、創造性を伸ばし応用力を養うことにつなげたいと考える。1曲1曲を仕上げ、2～3週間ごとに各クラス別にテストと称する発表を行なっている。

③ピアノ曲

学生と話し合い、希望に添うピアノ曲を技能に応じて選曲する。教員採用候補者試験¹⁰⁾や就職試験の課題の準備として、各自クラシカルな曲を1曲仕上げていく。ピアノ演奏技術と共に表現力を身につけるために必要な教材である。一つの楽曲に取り組むことで曲のイメージを掴むため、指導者に演奏を求めたりYouTubeを参考にしている学生もいる。大抵長期にわたって仕

上げていくが、表現力を養うことにもなり、読譜力とピアノ技術向上につながる。

④楽典

保育者養成課程における楽典（音楽の基礎知識）は、弾き歌いをはじめとするピアノの演奏など、音楽活動の展開を支える「音楽表現技術」の一つとして捉えられる。すなわち楽譜を読み取る土台となり、学修した内容が実際に演奏や保育現場の音楽活動に生かされることが理想である。自分で楽譜を読みとり、子どもの歌の伴奏や楽曲として演奏に結ばれるよう音楽知識に裏付けられた読譜力を十分養う必要がある。歌の伴奏のために特にコードの基礎理論を各自のピアノの前で学び、同時に響きとポジションを修得できるよう指導する。

3 グループレッスンの利点

90分の授業を全体の指導と個人指導に時間配分してレッスンする。個別で指導を行なっている間、指導を受けていない学生はヘッドホンを装着して各自練習をし、時間を有効に使うことが可能である。グループレッスンの利点としてまず、聴き合うことによる学びが挙げられる。学生は指導を受けることによるのみ学ぶのではなく、発表（テスト）の時間、みんなの前でピアノを弾き、お互いの演奏を聴き合うことによって、仲間の表現に触れ他者の表現を学ぶことができる。クラスの身近な仲間の発表を聴くことで、例えば「すごい」と感じた感想を即座に述べ、学習意欲を高めることにもつながる。指導者は演奏発表に際し、一人ひとりの表現の仕方、奏法、表情など幅広い観点から学生を伸ばすよう助言する。またみんなで一緒に弾き歌いをしてながら、あるいは2グループに分かれて伴奏と歌を交替することによって、子どもが歌う様子をイメージし、歌の伴奏力を高めることにつながる。筆者は先行研究（鶴巻、2012）において音楽表現を楽しむ創作活動のグループ発表から「保育の音楽実技だからこそ表現>を通して共感しながら音楽する心を育ていける」¹¹⁾と述べた。保育者を目指す学生が協同的な学びを実感できる音楽体験は重要である。他者の演奏を聴き、他者と音楽を共有しながらピアノ技法を学び、表現力を高められることはグループレッスンの特筆すべき利点だと言えよう。

4 コードによる伴奏の活用について

本学のほとんどの学生は幼稚園教諭第二種免許及び保育士資格の取得を希望する。そのために学生は2年間で合計5回の実習に行くことになる。1年次は11月に幼稚園教育実習1回目、2月に保育所実習1回目、3月に施設実習1回目、2年次は2回の実習として、6月に幼稚園教育実習、8月に保育所実習または施設実習を行う。幼稚園での主な実習内容において、ピアノを弾く機会が与えられている。

ピアノ課題は実習期間中の月のうた（1年次は主に11月のうた、2年次は6月のうた）と生活指導のうた、その他、実習園独自のうた、例えばキリスト教（カトリックとプロテスタント）系や仏教系の幼稚園独自のうたは、お祈りのうた、瞑想曲、感謝のうたなどが挙げられる。本学は付属幼稚園がないので、学生は第1回目から主に各自の地元の幼稚園で実習を行わせていただく。したがってピアノの課題曲は各実習園によって差が見られる。1年次の1回の実習で具体的に曲名を挙げて課題を与える実習園と特に課題を与えない実習園、またはまとめて「11月のうた全部」を練習するよう課題を与える実習園などそれぞれである。後者は初心者にとっ

て大きな不安と緊張を抱える要因になるため、前述したように学生のレベルに応じて、1年次には簡易なコード伴奏で課題曲を仕上げるように指導する。表4は幼稚園教育実習において課題とされる主な歌である。表5に1年次の課題「11月のうた」と「生活指導のうた」の伴奏指導に『幼児のうた100曲』を活用している曲に○を付した。

表4 幼稚園実習園の主な課題のうた

	実習 期間	『うたとあそび』		その他 実習園の課題曲伴奏譜
		月の歌 1年次 2年次	主に11月のうた (11曲中) 6月のうた (19曲中)	
1 年 次	11月	(10月のうた) どんぐり, どんぐりころころ キリンさん, まつぼっくり, 森のくまさん (11月のうた) 菊の花, 犬のおまわりさん 線路は続くよどこまでも, 山のワルツ バスごっこ, まっかな秋, もみじ	おはようのうた (ハ長調) おはようのうた ニ長調) お弁当 おかえりのうた さようならのうた	小さいおてて, 愛をください, 神様ありがとう きれいな心に, ピカピカおと うばんさん, にこにこごあい さつ, ほとけさま, ののさま, 瞑想曲 実習園の園歌, 実習園独自の あさのうた 他
2 年 次	6月	かえるの合唱, あめふりくまのこ かたつむり, 時計のうた, おおきな古時計 お使いありさん, ありさんのお話		

さて『幼児のうた100曲』には、『うたとあそび』に掲載されている共通の曲が57曲ある。表5に示したように50曲は調性が同じであるので活用しやすい。ハ長調は15曲、ヘ長調は18曲、ト長調は4曲、ニ長調は10曲、変ホ長調は2曲、そしてハ短調が1曲ある。『うたとあそび』の伴奏が難しい場合『幼児のうた100曲』を併用する。一方、調性が異なる歌は7曲ある。「おかあさん」「こいのぼり」「おんまはみんな」の3曲は『幼児のうた100曲』の方が『うたとあそび』より長2度高い。反対に「おなかのへるうた」「カレンダーマーチ」「まめまき」は『うたとあそび』より長2度低い。さらに「雪」は『うたとあそび』におけるヘ長調より短3度低くニ長調になっている。これは「幼児が無理なく歌える声域について」¹²⁾を考慮に入れると、年齢や状況によっては移調することが望まれるからであると考えられる。

表5 『うたとあそび』と『幼児のうた100曲』の共通曲で調性が同じうた

曲名	曲数	キー (調)
アイアイ, <u>おかえりのうた</u> , <u>おべんとう</u> , 思い出のアルバム, おもちゃのチャチャチャ, こぎつね (大きな熊さん), すうじのうた, せんせいとおともだち, そうだったらいいのにな, たきび <u>どんぐりころころ</u> , とんでったバナナ, とんぼのめがね, はをみがきましょう, <u>森のくまさん</u>	15曲	C (ハ長調)
あわてんぼうのサンタクロース, ありさんのおはなし, いちねんせいになったら, 大きな古時計 大きな栗の木の下で, お正月, おはながわらった, コンコンクシャンのうた, ジングルベル ぞうさん, たなばたさま, ちゅうりっぷ, <u>バスごっこ</u> , <u>まっかな秋</u> , <u>まつぼっくり</u> 南の島のハメハメハ大王, やぎさんゆうびん, 雪のペンキやさん	18曲	F (ヘ長調)
うみ, おばけなんてないさ, <u>線路はつづくよどこまでも</u> , ふしぎなポケット	4曲	G (ト長調)
<u>あめふりくまのこ</u> , <u>いぬのおまわりさん</u> , おつかいありさん, かたつむり, こりのうた こぶたぬきつね, 手をたたきましょう, とけいのうた, めだかのがっこう	10曲	D (ニ長調)
おはなしゆびさん, しゃぼんだま	2曲	E _b (変ホ長調)
うれしいひなまつり	1曲	C _m (ハ短調)

5 『幼児のうた100曲』の活用について

ここで筆者(嘉野クラス)のクラス, 経験者の取り組みを述べたい。コード進行は主要3和音を中心に配置してあるので, 初歩の学生も理解できる。指のポジションを押えれば, 弾くことはできる。「いろいろな伴奏形」の譜例から平易な伴奏形一つをレベルに応じて活用し, 慣れたら自分で伴奏を工夫できるようにさせる。経験者はさらに応用し, アレンジ奏法を学修することができる。

『幼児のうた100曲』の楽譜は, 「歌の部分だけでも弾けるようにと, 前奏, 間奏, 後奏は削除してある」と記載されているように, 全曲メロディーとコード(和音)のみが記載されている2段楽譜である。学生が譜面を見て, コードまたはメロディーに対して音の響きを捉え, 即座に音楽の展開ができるようになれば, 保育の場での活用が楽しく生かされるだろう。そのためには, まずコードとメロディーだけの譜面から, どのように弾けばいいのか, どのように演奏スタイルを生み出せばいいのか, そこからスタートしなければならない。一人ひとりのレベルに応じて演奏スタイルを確立していくためには, かなりの時間を要すると感じた。学生が限られた時間の中で多くの曲を仕上げていくための方法として, まずシンプルな参考伴奏楽譜を提供してみた。授業はグループ形態で実施しているので, 全員が同じ参考伴奏楽譜を見て弾いた。その段階で学生たちは, 基本的な部分(3和音・コードの響き・コード進行・分散和音の使い方・ベースラインの動きなど)を同時に理解することになり, シンプルなリズムのノリを感じることができた。また, 弾き歌いで仕上げるための歌の部分では, 歌詞や言葉の意味を理解し, 表現ができるように発声・発音・リズムトレーニングも取り入れた。事例として「森のくまさん」を取り上げてみる。『うたとあそび』では, 3段楽譜になっており, メロディーは歌い, 伴奏は右手と左手でリズムをとる表現方法である。表現方法は全て楽譜に記載されているので, 記載通りに練習し仕上げていくが, 学生のレベルによっては読譜力を必要とする。『幼児のうた100曲』の中では, コードとメロディーのみが示された3段楽譜である。先に述べたように, 和音によるベーシックなリズム伴奏からスタートする方法で, 前奏, 間奏, 後奏などは全て削除してある。レベルに応じて, 伴奏方法は各自が伴奏例を工夫しながら作り上げ練習する。一方, 学生に提供した楽譜は, 『幼児のうた100曲』をさらにシンプルにしたリズム伴奏形で, 2段楽譜で作成した。左伴奏の分散和音は三和音を主に作成してあるので, コードを理解しやすい。したがって, ピアノ演奏でも弾き歌いでも活用できるように工夫した。前奏となる9小節目には「イントロ→」と書き込みを入れてある。

曲に合ったリズムパターンを同じページの下方に載せることでリズム表現法の修得になり, タッチ感覚からくる音楽のノリを感じ, 楽しくなると考える。歌詞に余裕ができてきたらメロディーは自分の声で歌い, 歌の伴奏のリズムを両手で表現することで, 演奏全体に深みを感じられるのではないだろうか。各自が表現しやすく楽しい伴奏形を見つけることを期待したい。

次に, 授業の中で発表の場を作り, 取り組んだ曲を演奏し, 聴き合うことで演奏する喜びが与えられた。学生たちによって新たにアイデアが生み出されたことや, 学生自身が自分の演奏を客観的に評価する視点の育成につながり, 発表を通して素晴らしい感動が与えられたことに成長を感じた。

以上のように授業では, コード譜を見て即座に演奏ができること, 歌とピアノの音量 balan

スを考慮しながら演奏できること、アイデア、アレンジ、即興演奏が生かされ、保育の場で活用できることを目標に様々な工夫をしている。

参考伴奏譜を活用することで、鍵盤上でのコードポジションを即座にキャッチし、コードの基本形・コードの転回形、またコード進行の基本の流れを作ることができるようになる。また、コードやコード進行、リズムパターンを理解することで、曲を仕上げるための時間短縮になり、多くの曲に触れることができるようになる。多くの曲に触れることで、コードを鍵盤上でのポジションをキャッチできるようになれば、即座に演奏が可能になると考えた。また学生が自分なりにわかりやすくアレンジして、表現方法を書き込み、練習を重ねることによって、弾くことに対する不安が除かれていくのではないだろうか。このように曲を仕上げるためには、地道な作業が必要になってくるが、大切なことである。

IV. 調査

A Moodleを利用したアンケート調査

1) 調査対象

本学こども学専攻 平成29年度 2年次生（1年次音楽Ⅱの受講者）66名

2) 回答期間

平成29年4月5日～4月15日（指定した期間に全員が回答した。）

3) 設問項目

平成28年度1年次「音楽Ⅱ」の授業に関するアンケート

- 1 希望する職種および進路
- 2 入学前のピアノ経験について
- 3 現在、学外でピアノを習っているか
- 4 習っている理由と習っていない理由
- 5 ピアノ以外の演奏できる楽器
- 6 ピアノ授業とピアノ実技について
- 7 ピアノ学習における振り返り記述

B 幼稚園教育実習Ⅱ終了後の調査

1) 調査対象

本学こども学専攻 平成29年度 2年次生35名（鶴巻，嘉野クラス）
音楽Ⅳ（ピアノ実践法）の受講者

2) 方法と期間

幼稚園教育実習Ⅱ（平成29年5月27日～6月9日）終了後実施し、1週間後に回収した。

3) 調査内容

調査内容は4項目である。①実習園訪問またはオリエンテーションの際、練習するように言われた曲（6月のうた11曲，生活指導のうた15曲の一覧表に○をつけ，その他の曲は記入する）

②いつ（何月頃）課題が出されたか ③実践した場面，「朝の会」「昼食時」「帰りの会」「1日保育」「設定保育」など活動の一覧表に回数を記入する ④振り返り記述(1)実習のためにピアノで準備・努力したこと。(2)ピアノ，歌などの音楽活動の中で子どもの表情，動き，反応などで気づいたこと。(3)実習中の音楽活動について思ったことなどを自由記述するものである。本稿では④の(1)(2)(3)の記述のみをまとめた。

V. 結果と考察

A Moodleを利用したアンケート調査

1 希望する職種および進路

平成29年4月時点、2年次生（66名）の希望する職種および進路である。幼稚園24名（36%）と保育所28名（42%）希望者はさほどの開きはないが、保育所希望者がやや多い。進学希望者と保育職以外の希望者が5名（8%）と同数であり、施設希望者が4名（6%）である。

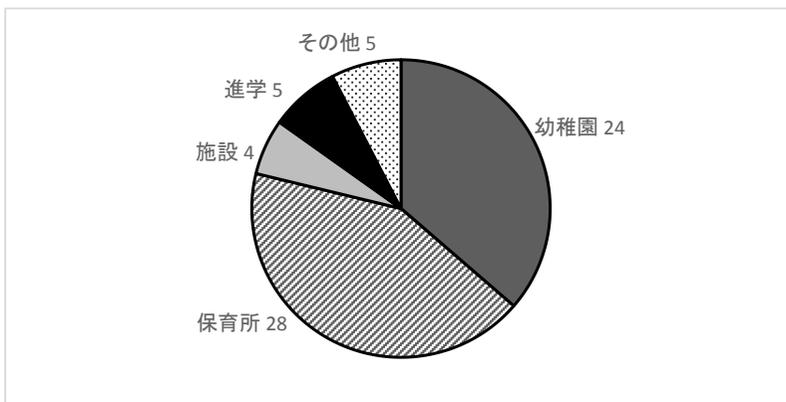


図1 希望する職種および進路 n = 66

2 入学前のピアノ経験について

ピアノ経験の有無について、66名中「ない」は22名（33%）、ある44名（67%）の回答を得た。内訳は図2のとおりである。

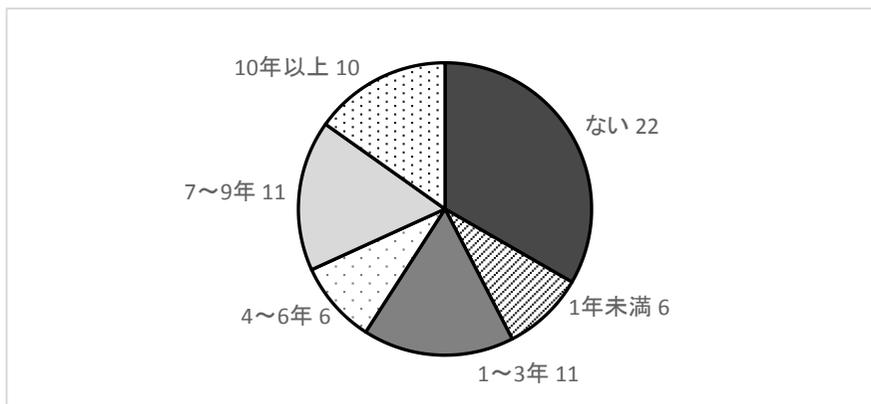


図2 入学前のピアノ経験の内訳 n = 66

ピアノ経験のない学生は22名（33%）である。ピアノ経験が「ある」の内実をしてみる。幼児期、短い期間ピアノを習ってやめた、あるいは本学への入学が決まってから、ピアノを習い

始めた1年未満の学生は6名（9%）である。1～3年ほどのピアノ経験者は11名（17%）である。そのような入門程度の学生を合わせると39名（59%）で全体の6割を占める。次に4年～6年が6名（9%）、7～9年は11名（18%）、10年以上10名（15%）である。「経験がある」と言ってもピアノをやめてからの期間が長い初心者程度の学生も多く、まず基礎から学び直すことが必要である。また長期間個人でピアノを習っていたが、漫然と継続してきた学生も少なくない。短い期間に集中して地道な練習を継続する習慣と、意欲を高める指導が必要となっている。

表6は28年入学時のピアノ経験年別のおおよその進捗を示したものである。

表6 ピアノ技能のグレード

n = 66

ピアノ経験	人	%	進 度
ない	22	33	バイエル併用ピアノ小曲集 前半
1年未満	6	9	バイエル併用ピアノ小曲集 前半/中盤
1～3年	11	17	バイエル併用ピアノ小曲集 後半
4～6年	6	9	ブルグミュラー 25の練習曲
7～9年	11	17	ブルグミュラー 25の練習曲/ソナチネ/ソナタアルバム
10年以上	10	15	ブルグミュラー 25の練習曲/ソナチネ/ソナタアルバム 他

3 現在、学外でピアノを習っているか

・習っている 6名（9%） ・習っていない 60名（91%）

4 理由

4-1習っている理由

「入学前に送付された資料の勧めによって」1名、「個人的に指導を受けたい」2名、「ピアノの先生が保育士であるので現在の情報を聞きながらレッスンを受けたい」1名、実習に向けてレパートリーを増やしたい」1名、「初心者なのでレベルを上げたい」1名の理由が挙げられた。

4-2習っていない理由

習っていない人の理由の内容（複数回答）を、4項目に大別し図3に示した。習っていない学生60名中、「時間的に余裕がない」が最も多く30名である。これは1年次には履修科目と体験的学びも多く、カリキュラムも過密していることが回答に表れていると考えられる。次に「授業と自己練習で習得する」は26名である。「基礎を習った」からと応えた8名は「授業と自己練習で修得する」という範疇に含まれるがあえて分類した。「経済的余裕がない」7名は、「時間的余裕がない」の双方を回答している。

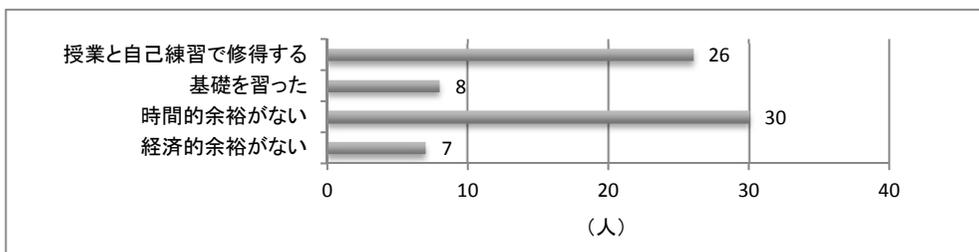


図3 習っていない理由 (複数回答)

5 ピアノ以外の演奏できる楽器

図4に示されたように、ピアノ以外の演奏できる楽器で「なし」と回答した学生は24名(36%)であった。他の42名(64%)の学生はピアノ以外の楽器や合唱、歌うことなど「得意」「好き」と回答した。すなわち音楽が好きであるとも言える。これらの回答の多くは入学前の課外活動やこれまで受けてきた音楽の授業における経験によるものであろう。「音楽する楽しみ」「喜び」アンサンブルなどの経験は、「保育の音楽表現技術」の学修に有用な要素である。ピアノの授業において例えば、全く音楽経験のないピアノ未経験者と楽器経験のあるピアノ未経験者を比較すると、経験した楽器によってト音譜表とヘ音譜表別に譜読みが円滑に進められる。あるいはパーカッション経験者はリズム感、拍子感が得意であったりする。グループレッスンのクラスを編成する際、及び指導上での参考情報ともなる。

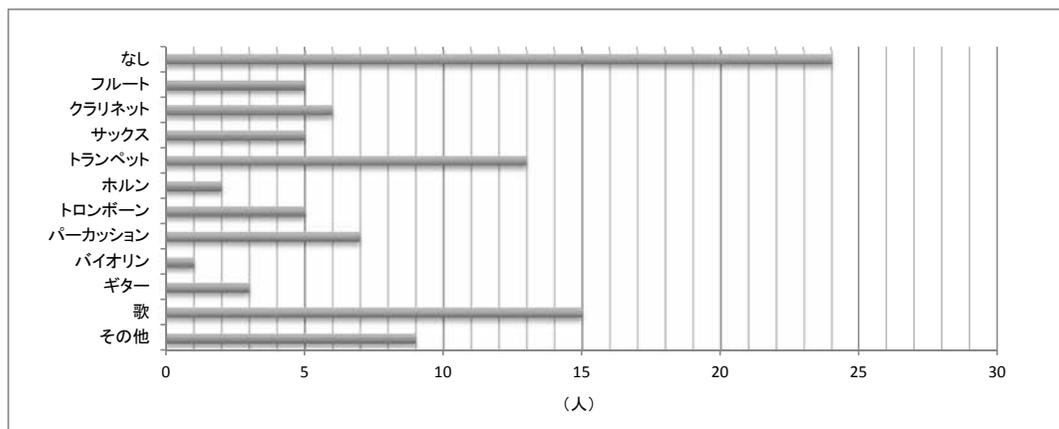


図4 ピアノ以外の演奏できる楽器 (複数回答)

6 ピアノ授業とピアノ実技について

ピアノ授業とピアノ実技についての設問結果を表7に示す。17項目の設問は、ピアノが「楽しい」「好き」という視点から4項目①～④、教材に関する2項目⑤⑥、学生の「自己評価」の項目11項目⑦～⑰である。5尺度「とてもそう思う」から「全くそう思わない」とし、設問事項に対する平均値を示した。

表7 ピアノ授業とピアノ実技について

n = 66 (%)

	5とてもそう 思う	4まあそう 思う	3どちらとも 言えない	2あまりそう 思わない	1全くそう 思わない	平均値
①ピアノの授業は楽しいですか	14(21.21)	28(42.42)	18(27.27)	6(9.09)	0	3.76
②ピアノの自己練習は楽しいですか	12(18.18)	16(24.24)	31(46.97)	5(7.58)	2(3.03)	3.47
③入学時よりピアノは楽しくなりましたか	9(13.64)	40(60.61)	15(22.73)	2(3.03)	0	3.85
④ピアノは好きですか	16(24.24)	31(46.97)	13(19.70)	5(7.58)	0	3.85
⑤『うたとあそび』の伴奏は難しいですか	28(42.42)	20(30.30)	16(24.24)	2(3.03)	0	4.12
⑥『幼児のうた100曲』は役に立ちますか	21(31.82)	30(45.45)	13(19.70)	2(3.03)	0	4.06
⑦ピアノは上達したと思いますか	9(13.64)	45(68.18)	11(16.67)	1(1.52)	0	3.94
⑧ピアノ実技の意識は変わりましたか	26(39.39)	32(48.48)	8(12.12)	0	0	4.27
⑨やればできるという体験をしましたか	28(42.42)	25(37.88)	11(16.67)	2(3.03)	0	4.2
⑩授業の内容を理解できますか。	14(21.21)	35(53.03)	17(25.76)	0	0	3.95
⑪授業の課題をこなしていますか	15(22.73)	38(57.58)	9(13.64)	4(6.06)	0	3.97
⑫「生活のうた」は弾けますか	11(16.67)	41(62.12)	14(21.21)	0	0	3.95
⑬コードの基礎を伴奏に活用できますか	13(19.70%)	22(33.33%)	23(34.85%)	7(10.61)	1(1.52)	3.59
⑭指使いは工夫していますか	8(12.12)	26(39.39)	22(33.33)	9(13.64)	1(1.52)	3.47
⑮読譜力は向上しましたか	11(16.67)	36(54.55)	15(22.73)	4(6.06)	0	3.82
⑯宿題の発表(テスト)は緊張しますか	36(54.55)	21(31.82)	9(13.64)	0	0	4.41
⑰実習中のピアノに不安がありますか	31(46.97)	18(27.27)	10(15.15)	7(10.61)	0	4.11

考察

全体の中で平均値が高いのは「ピアノ実技に対する意識」(4.27),「やればできるという体験」(4.20),「宿題の発表(テスト)の際の緊張」(4.41)である。

ピアノ実技の意識が「とても変わった」「変わった」(88%)対して、「変わらない」の回答者が0であることから、保育者を目指す学生が1年間の授業と幼稚園実習などを通して、全員がピアノ実技に対する意識が向上し、ピアノ学習の必要性を実感したということは特筆されることであろう。

ピアノ実技について

－「ピアノの授業は楽しい」は64%,「入学時より楽しくなった」は74%,「ピアノは好き」は71%である。これら3項目の平均は70%である。だが「ピアノの自己練習は楽しい」は約40%と低い。ピアノの練習には、自分と向き合いコツコツと忍耐を要し、反復練習を積み重ねること、努力が不可欠となる。できるだけ毎日、5分でも10分でも短時間、心を集中して練習する習慣をつけるよう指導しているが、個人で練習継続が困難な学生、練習方法がわからないために楽しいとは思えない学生がいると推察する。

教材について

－『幼児のうた100曲』は「役に立つ」は77%であり、初心者も簡易なコード進行に置き換え

である伴奏を活用していることを表している。これに対して『うたとあそび』の伴奏は「難しい」は73%と相関関係にある。

自己評価について

－「やればできるという体験をした」は80%、あまりそう思わない学生が3%（2名）である。また1年間で「ピアノが上達したと思う」は82%であり、「あまり上達したと思わない」は1名である。ピアノ技術が「上達した」という自己評価から、練習によって「弾けるようになる体験」をし、達成感を味わい自信につながっていると考える。

－「授業の課題をこなしている」は80%、「全くこなしていない」が0である。また「授業の内容を理解できる」は74%である。「あまり理解できない」「全く理解できない」が0であることから、グループレッスンにおいて習熟度に応じた指導が行われていると考えられる。

－「指使いを工夫している」は平均値（3.47）が最も低く、52%の学生は工夫をしている。指使いはピアノの基礎力を高めるために不可欠であり、音楽の基礎理解とピアノ技法の基本となるものである。本来は自ら考え書き込む習慣をつけたいが、指導者が決めて楽譜に書いて与えている。指使いを守らなくても音をつなぎ、何とか弾けてしまうためほとんど意識しないか、楽譜を読み弾くのに精一杯な学生もいる。初心者の中で「楽譜が読めない」、「指使いがわからない」ことで練習が進まない、あるいは一人で練習を持続することが困難な要因ともなっていると推察される。運指法について、今後さらに懇切に指導する必要がある。

－「宿題の発表（テスト）は緊張する」という回答結果（4.41）についてである。各クラスの通常の授業における宿題の成果を発表するいわゆる小テストを意味する。クラス毎の授業計画に前もってテストの日と発表曲が示されている。緊張しない学生は0であるので大なり小なり全員が緊張感を持って発表している。「実習中のピアノに不安がある」が74%を占めるのは、まず実習中にピアノを弾くこと自体、初心者にとって不安であるのは当然であると言えよう。また園から渡される課題が知らない歌や曲であると「知らない」というだけで不安を覚える他、実習に入ってから渡される曲も不安の理由となっていると推察される。

－「コードの基礎を伴奏に活用できる」は、53%であることから、約半数の学生は活用できないことを表している。今後コードについてさらにわかりやすい指導法の工夫が必要である。

全体として

「ピアノが楽しくなった」、「ピアノは好き」は7割以上であり、「やればできるという体験をした」が8割以上、「ピアノ実技に対する意識の向上」が約9割を占めたことは、音楽Ⅱの授業の一つの成果として挙げられ、筆者らの目標の一つであるピアノ実技を「楽しむ」ことについてある程度の到達を得たと言えよう。

7 ピアノ学習における振り返り記述

ピアノ学習における「気持ちの変化」「身についたことや力」「努力したこと」の主な記述を3項目にまとめ表8に示した。

表8 ピアノ学習における振り返り記述

	内 容
気持ちの変化	<p>－私は、ピアノを大学に入ってから始めたのですが、最初は全然弾けなくて、とても苦痛でした。でも、練習していくうちに前期では両手で弾けなかった生活の歌が後期では弾けるようになり、とても嬉しく、もっと努力しようと強く思えるようになりました。</p> <p>－この1年でピアノの技術が上達したように感じます。初めは楽譜を読むこともあまりできず、右手しか弾けなかったのですが今は両手で弾けるようになってさらに頑張ろうと思うようになりました。</p> <p>－みんなの前で弾くことによって、実習の時のための緊張感を経験できてとても良いことだと思いました。</p>
身についたことや力	<p>－…楽譜が読めるようになったこと、両手で弾けるようになり、みんなの前で弾くことができたことです。</p> <p>－…最初はト音記号の楽譜しか読めず、ピアノを弾くことができるのか心配でしたが、だんだんピアノの授業を重ねていくうちにコツを掴んでヘ音記号も読めるようになりました。</p> <p>－人前で演奏することがとても苦手でしたが、授業を重ねるにつれ、自信へと変わっていきました。また、童謡以外にもピアノ曲やバーナム等様々な曲を演奏することができ、新しい経験をするのが出来ました。テストもあるので家で練習をし、親に聴いてもらったりして自分から練習をするという習慣ができました。</p> <p>－子どもたちにどうやったら楽しんで歌えるか、また、楽しさはどのようにしたら伝わるかななどを工夫しながらピアノを弾くということをごころがけるようになりました。</p> <p>－ピアノの授業を通してコード伴奏や短時間で弾けるようになることなど様々なことを身につけることができました。また、上手く弾かないといけないという気持ちから、子どもたちが歌いやすいような弾き方が大切だと感じ方が変わりました。コードは難しく何度もピアノを使って考えながら一つひとつ理解していきました。</p> <p>－…ただ上手に演奏するだけではなく、子どもたちが歌いやすいよう、そしてまず、自分自身楽しんで弾けるようにこれからも練習をして、色々な曲を弾けるようになりたいです。</p> <p>－…覚えて弾けるようになるまで何回も何回も練習し、弾ける時の達成感を味わうことができた。</p> <p>－ピアノの授業を通して今までより楽譜をはやく読めるようになったり、弾き歌いのできるようになったりしました。実習のときに緊張はするけれど少しだけでも自信を持つことができるようになりました。また弾けたときの達成感や充実感はとてもやりがいを感じます。</p> <p>－もともとピアノを弾くことは好きでしたが、テンポやリズムに注意せず直感で弾いていました。授業で指導を受けるようになってから、楽譜を正しく読むように意識して練習するようになりました。</p>
努力したこと	<p>－…授業を通して、ピアノが上達していき、練習を積み重ねていくことでピアノができるようになる楽しさを感じるようになり、入学当初よりピアノに触る時間が増えていきました。テストの日にあたって、演奏が成功したいという気持ちが強くなり、練習しようと努力しました。</p> <p>－…毎回テストをする中で、みんなの前で弾くことに少し慣れてきました。もっと努力して実習でピアノが不安にならないようにしたいです。</p> <p>－授業内での宿題や課題はしっかりと練習してテストに望むように毎回心がけました。授業では、簡易伴奏で習った曲も、自分で赤本¹³⁾を見て練習したり、赤本を少し簡単にしたりして、実習で弾けるようになりました。今後は、子どもたちを見る余裕をもう少し持って伴奏ができるよう努力していきたいです。</p>

考察

ピアノに対する気持ちの変化

初心者の学生は、保育者になるための目標実現のために、ピアノが弾けるようになりたいという意識が十分にある。ピアノ技術修得のためにまず、譜読みに慣れることからであった。中には苦痛も乗り越え、努力して練習することによって小さな達成感を得る体験をし、楽しく思えるようになってきたという記述が目につく。「ピアノに限らず技術は手段であると同時にそれ自体目的でもある。学習者にとって一つの楽器をマスターすること自体が、音楽表現の手段であると同時に目的でもある。技術習得には、人間の本能に近いある種の喜びがあることは否定しえない事実である。…表層的な楽しみよりも、達成した時の喜びのほうが大きい」¹⁴⁾ことを実感としているのである。ピアノ技術はコツコツと練習を積み重ねることによって得る技術や基礎をマスターし、楽しみと喜びを自分のものとするのである。

身についたことや力

まず「楽譜が読めるようになった」という記述が多いことと「人前で演奏ができるようになった」ことが挙げられる。人前でピアノを弾くことに対して苦手意識や抵抗感を持った学生が、基本をしっかりと学び、1年間で読譜力も向上し、達成感を味わいながら意欲を高め、ピアノ技能の向上につながっている。さらに授業における発表を重ねながら、自信に変わってきたことが読み取れる。だが初心者の中には音符を読むことができるようになっても、楽譜を読みとることに行きつかず、リズムがわからず実際の曲として演奏に結ばれないことから読譜力を十分養う指導が必要であると感じている。また1年次の実習においてすでに、単にピアノを「上手く弾く」のではなく、子どもたちが歌いやすいように弾くことが大切であり、保育の場で子どもたちと楽しく音楽活動をするためにどのようにピアノを弾いたら良いか考えるようになったという初心者の記述も見られた。

努力したこと

「テストに向かって練習に励む」といった肯定的な記述が目立ち、練習によって向上心を高めピアノの演奏技術を向上させたいという気持ちが記述されている。担当教員はクラス毎の授業計画に「テスト」の日と曲名を記載しているので大抵の学生は、クラスでの小テスト毎に緊張を伴いながら弾くことになるが、1回1回のハードルを乗り越え精神的にも成長し、人前で弾く機会の場を踏みながら次第に慣れ、自信につながっているのである。前述した表7の「ピアノ授業とピアノ実技について」の結果で、「宿題のテスト」についての発表に当たっては緊張しない学生は一人もいないことが明らかになったが、クラスの仲間の前で緊張感を持って演奏の経験を重ねることは、学生自身もピアノ演奏表現の向上につながる機会であることを実感できていると考える。

実習に備えて『うたとあそび』と『幼児のうた100曲』を併用しながら、自分で弾ける伴奏譜に適宜アレンジを試みて練習しているとの思いも記述されている。

B 幼稚園教育実習Ⅱ終了後の調査

2年次の幼稚園教育実習後に振り返り調査を行い、ピアノ演奏の機会について「努力したこと」「気づき」「自由記述」にまとめ表9に示した。

表9 幼稚園教育実習後の振り返り

	記述内容
努力したこと	<p>-5月と6月の歌の中から指定はなかったけれど、みんなが知っている3曲を赤本で弾けるだけでなく弾き歌いができるよう努力した。</p> <p>-赤本の季節の歌、特に「あめふりくまのこ」が難しいので弾けるように練習した。</p> <p>-子どもが見ることができるよう楽譜を見なくても弾けるくらいまで練習した。</p> <p>-ピアノは苦手なので早くから6月の歌を毎日練習し、ピアノを弾くだけでなく弾き歌いでもできるように練習した。</p> <p>-たくさん練習しても、やっぱり緊張したが、子どもの前でピアノではなく、踊りを考えて歌を歌ってと言われた時、授業でそのようにしたことが活かされた。</p> <p>-実習の後半になると「おかえりの歌」が余裕を持って弾けるようになった。</p>
気づき	<p>-子どもはピアノが止まってしまうと歌わなくなる。また歌詞があいまいな歌は、保育者が率先して歌うことで子どももよく歌うことに気づいた。</p> <p>-保育者が自信を持って弾くことで、子どもが元気よく歌ってくれる。</p> <p>-子どもたちは先生のピアノ演奏に合わせて歌うことが大好きで、リズムに乗せて踊ることも大好きだ。</p> <p>-保育者が笑顔で楽しそうに歌っているのが印象に残った。自分自身が楽しんで弾き、子どもたちも楽しめるように弾くと笑顔が増える。</p> <p>-子どもたちは保育者の弾くピアノや歌に合わせて自然と自分の好きな動きをしながら踊っていた。</p>
自由記述	<p>-…子どもたちにとってのピアノを考えるようになりました。幼稚園はピアノを毎日弾いて、すごく子どもたちが楽しそうにしていたので、私は子どもたちが笑顔に歌えるようピアノをこれからも頑張りたいと思います。子どもが歌っている場面を想像しながら弾き歌いの練習をたくさんしました。</p> <p>-先生たちは慣れているので、楽譜をほとんど見ないで子どもたちの方をずっと見て弾いていた。子どもたちの歌うテンポに合わせていたので、とても歌いやすそうに歌っていた。</p> <p>-「時計のうた」を歌っている時、踊っている子どもがいた。「かえるの合唱」を男の子、女の子に分かれ最後に全員で歌った時、コードで弾いたらみんな元気に歌ってくれた。ピアノによって子どもの歌い方が変わってくるし、うまく弾けて嬉しかった。</p> <p>-椅子取りゲームでピアノを弾いた時、終わり方がうまくできなかったが、遊びの中でピアノを弾くのが楽しかった。ほかにリズム遊びでもピアノが使われていたので、自由に弾けたらいいなと思った。</p> <p>-明るい伴奏をすると、子どもはとても楽しそうに歌や踊りに取り組めることがわかった。</p> <p>-直前に「並ぶ時の曲」や瞑想曲を突然渡されて初見で弾くのが大変だったが諦めずに最後まで弾いた。</p> <p>-朝の会で当日に配られた楽譜がコードだけだったので、もっとコードの練習をしておけばよかった。</p> <p>-ピアノの重要性を改めて感じもっと練習が必要だと思いました。自分のペースで弾くのではなく、子どもたちの年齢などを考えて速さなどを変えていくべきだと思いました。生活の歌は毎日必ず歌うので、楽譜を見なくても弾けるように努力しました。また、弾き歌いが難しく、つまずいてしまうことが多かったので練習のときもイメージをして弾くことを努力しました。</p> <p>…2回の実習で失敗はしたけれど、子どもたちと楽しく弾き歌いをして、保育者の方からもアドバイスをしてもらい自信がつけました。これからも、毎日の練習を欠かさず頑張っていきたいです。</p>

考察

実習中の保育の場における音楽活動やピアノ実践についての学生の記述は、子どもたちとともに保育者の実践や指導に直接触れ、音楽活動の実践にも参加させていただき、多くのことを学んだことが分かる。実習によって、学生は現在の自分の力量を知り、自分の課題を明確にする機会となったであろう。

ピアノ技術に関して「たくさん練習してもやっぱり緊張した」「2回の実習で失敗はしたけれど、子どもたちの前で楽しく弾き歌いをして保育者の方からもアドバイスをしてもらい自信ができました。これからも、毎日の練習を欠かさず頑張っていきたいです」と、技術的に未熟であっても前向きの思いを記述している。また1年次の11月の実習では、簡易なコード伴奏で演奏した学生も、約半年後の2年次の実習では『うたとあそび』のオリジナルな伴奏にチャレンジして弾けるように努め、童謡のレパートリーを広げることにも目を向けている。

子どもの表現について学生の多くは、子どもたちは歌が大好きであり、ピアノ伴奏は子どもの表現の幅を広げるものであることを理解している。また伴奏や弾き歌いだけでなく、子どもの動きを促す際の動作の中で「並ぶ」時の曲やリズムなどの音楽を使った活動に合わせた即興演奏が求められる場面も体験をした。決まった楽譜を見て弾くだけでなく、即座に対応できるピアノ力を備えるなどピアノ表現の幅広さと奥深さを認識した学生もいる。

ピアノ技術は授業で学んだ技術を保育の場で即座に生かすことは難しい。卒業し保育の場に立ち、経験しながら修得されていくのである。授業においては本学のグループレッスンの利点を生かし、子どもの表現、感性を育むためのピアノ表現力が身につくよう、学生が子どもの姿をイメージしながら取り組めるグループレッスンとなるよう工夫が必要である。

VI. おわりに

本研究の2種類のアンケート調査（学内と学外、すなわち授業におけるピアノ実技と幼稚園教育実習におけるピアノ実技について）の学生自身の記述内容から、学生のほとんどは本来、「ピアノを弾くことが好き」であることが見えてきた。バーンスタインは演奏することは、すべての人に開かれ、人前で演奏することを推奨している。プロでもアマチュアでもすべての人が演奏によって「純粋に音楽に身をささげることで演奏から恩恵を受ける」のであり、ピアノを練習する上で直面する問題点について克服法を語り励ます。また「このような大きな挑戦を果たしたことから得られる自信は、他のすべてのことに挑戦する気力を呼び起こす。ごく簡単な曲でも密度の高い演奏をすれば、聴く者に、自分もしたい、という気持ちを抱かせる。このようにして、非常に模範的な形で音楽に貢献できた喜びを味わうことができる」¹⁵⁾。さらに「…困難を克服しようとする精神の働きが、ピアノを弾くことのみにとどまらず、人生全体に影響を及ぼすものである。このようにして、指のトレーニングに見えたものが、実は、精神を磨き、優れた人格形成につながり、豊かな人生をもたらすものである」¹⁶⁾ことを力説する。これは保育に求められるピアノ演奏に向き合う学生に語りかけるものではないだろうか。

本学こども学専攻はらせん構造上の学びの経験を大切にしている。子どもに直接かかわり体験的に学びを繰り返すことによって、目指す保育者像に近づいていく。ピアノの練習や音楽表

現技術の学修は単純な階段を登っていくのではない。音楽（ピアノ）体験を囲む円を描きながら表現することを繰り返し行いながら進んでいくのである。その度に体験が深まり、らせん状階段を上向している。そのプロセスと上向は人生の歩みであり、本来の人間の姿に上向し、再生するのではないだろうか。

学生が、様々な表現の可能な「ピアノを楽しむ」心を豊かにし、演奏の土台となる「楽譜を読み取る力」と「楽譜にとらわれないでのびのびと演奏できる」ピアノ奏法を修得する指導法を検討していく必要がある。保育現場に必要とされるピアノ技術を身につけるための種々の機会に不安や緊張は免れないものだが、将来保育者として、子どもたちの表現を受け止め、生き生きとピアノ実践力を発揮できるよう指導法を今後も追求したいと考える。

注

- 注1) 新田司「『子ども学』の変遷と課題」『千葉敬愛大学研究紀要第31号』2009年、95-104頁参照。
- 注2) 保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）保育士養成課程等検討会、2010年、7頁参照。
- 注3) 同上。
- 注4) 鶴巻保子「保育士養成のための音楽表現技術における学生の学び」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要第42号』2012年、58頁。音楽Ⅰ（1年前期／必修）1単位、音楽Ⅱ（1年通年／必修）2単位、音楽Ⅲ（1年後期／選択必修）2単位。
- 注5) 平成29年度入学生向けカリキュラムの検討における科目内容の見直しに伴い、「告示による教科目」における「選択必修科目」の「音楽Ⅲ」について単位数の変更（講義2単位から講義1単位）をし、内容の見直しをすることとした。
- 注6) 27年度16名／58名（27.6%）、28年度18名／70名（25.7%）、29年度12名／44名（27.2%）の参加率である。分母は入学者数である。
- 注7) ML（Music Laboratory）とは、「教員用電子ピアノ（親機）と学生用電子ピアノをケーブルで接続することにより、集団の鍵盤学習を効率的に行い、教員と学生一人ひとりがヘッドホンとマイクを通してコミュニケーションができるシステム」である。
http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/educational equipments/music_laboratory_system/
 近年は、従来までのピアノ個人レッスンに加え、MLシステムを利用してピアノの授業を増やす、あるいは他の音楽授業にMLを活用してMLレッスンの形態で行っている養成校も少なくない。武石宣子「保育者養成校におけるML教育について－授業内容の工夫と学習効果－」『全国大学音楽教育学会研究紀要第27号』2016年、32-35頁参照。
- 注8) 鹿児島市私立幼稚園協会編『うたとあそび』2016年。
- 注9) 在原章子・菊本哲也・三好優実子・柳田憲一・山内悠子『新版和音伴奏による幼児のうた100曲 [第2版]』全音楽譜出版社、2007年。
- 注10) 「平成29年度鹿児島県私立幼稚園等教員採用候補者試験実施要項」（平成30年度採用分）

に試験科目は、音楽実技（ピアノ）・課題曲：引き歌う・自由曲：ピアノ曲と記載されている。

注11) 鶴巻保子, 前掲書, 68頁。

注12) 久保田和子「幼児の歌唱指導に必要な指導者の技術に関する考察－幼児が無理なく歌える声域について－」『関東短期大学紀要 第59集』2017年, 51-63頁参照。

注13) 『うたとあそび』の装丁が赤一色であることから通称となっている。

注14) 西澤章雄・内山澄孝・菅原陸男・北村恵子・渡辺亜紀人『音楽教育における「不易」と「流行」－音楽教師のあり方を求めて－』教育芸術社, 2002年, 32-33頁参照。

注15) セイモア・バーンスタイン著／左藤覚・大津陽子訳『心で弾くピアノ－音楽による自己発見』音楽之友社, 1999年, 205頁。

注16) 同上, 285頁。